

国際規格の動向—国際会議に出席して— 須賀茂雄

ISO/TC156（金属及び合金の腐食） フランス・パリ国際会議

開催日：2018年5月29日～6月1日

場所：AFNOR

参加国：ベルギー・フランス・アメリカ・チェコ・スウェーデン
・中国・韓国・日本 8ヶ国 20名

当社に関するWG7(腐食促進試験)の審議について
報告する。

(1) ISO 16151(酸性雨サイクル試験)

PL(プロジェクトリーダー)の須賀より2018年5月に発行された事が報告された。

(2) ISO 14993(塩水噴霧・乾燥・湿潤の複合サイクル試験)

PL 須賀よりFDIS 投票が6月末締め切りで回送中と報告された。

(3) ISO 22479(湿潤下でのSO₂ガス腐食試験)

PL 須賀よりCD 投票時のコメントへの説明があり、DIS 投票が6月に開始されると報告された(現在、9月10日期限内で回送中)。

(4) ISO 16539 B法(塩化物一定付着-絶対湿度一定でのサイクル試験)に関するテクニカルレポート(TR)

PLの藤田委員がプレゼンを行い、CDとNPを2018年末までに提出する。

<ISO 14993、ISO 16151 改正について>

ISO 14993 および ISO 16151 は、ISO/TC156/WG7 において日本より提案され、2001年と2005年にそれぞれ制定されたISO規格で、塩水噴霧・乾燥・湿潤の組み合わせによる最も一般的な複合サイクル試験方法が規定されている。ISO 14993は中性塩水溶液によるサイクル、ISO 16151は2種類の酸性塩水溶液による酸性雨サイクル(A法、B法)を規定している。

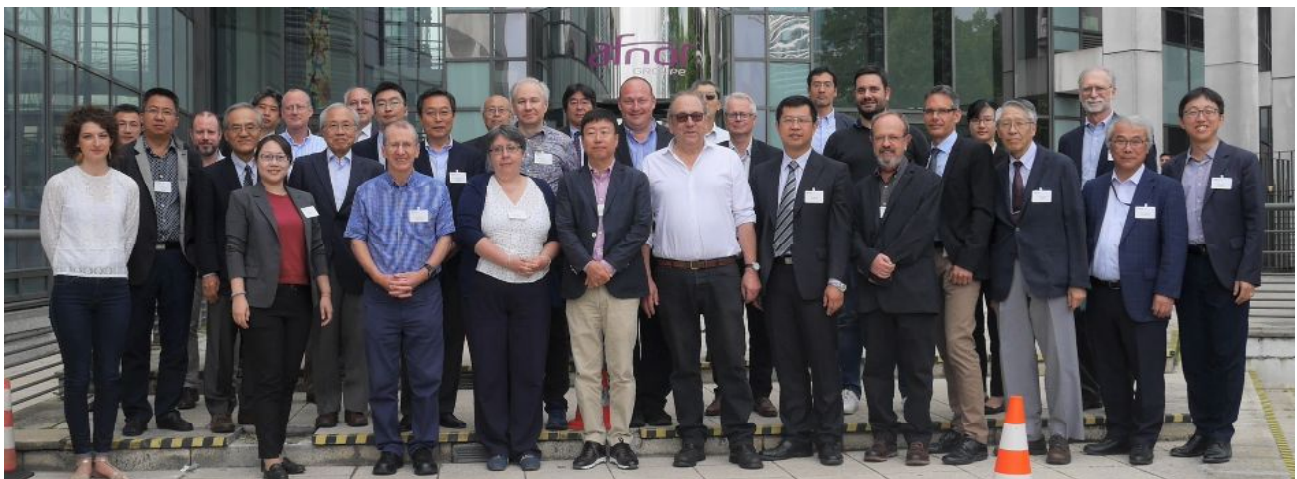
今回の両規格の改正は、2017年に改正された塩水噴霧試験規格ISO 9227との整合を主目的として進められた。

主な修正点は下記の通りである。

- ・Terms and definitions の追加
- ・塩化ナトリウムの規定を修正
(重金属の量、固化防止剤の有無に関する注記など)
- ・圧縮空気の噴霧圧力の推奨値を規定(98 kPa)
- ・有機皮膜をもつ試験片の規定を Annex に追加
- ・典型的な複合サイクル試験機の図を修正

ISO 16151は今年5月に、ISO 14993は7月末に改正発行された。

次回は、2019年6月10日～14日に札幌にて開催予定。



TC156メンバ

ISO/TC42/WG5 (写真/画像の保存性) 東京国際会議

*喜多英雄

開催日:2018年6月7日

場所:スガ試験機(株)本社

参加国:スイス・ベルギー・アメリカ・日本 4ヶ国 16名

当社須賀茂雄と共に出席した。

(1) ISO/CD 18937(イメージング材料-現像済み写真印画紙-屋内光の安定性の測定方法)Edition 2 (Xenon only)

PLのMatt氏が6月中にDIS投票として回送するための準備をする。

Edition3では当初、Part3として進められていた白色蛍光灯の内容をPart1 通則のInformativeなAnnex(参考附属書)に移行することとした。その為、LEDをPart3とする。

Part 1 – general illumination(通則)

Part 2 – Xenon illumination(キセノン)

Part 3 – LED illumination(LED)

Matt氏がdraftを準備し回送する。須賀とHenry氏は東京会議で議論された内容を反映したPart3 LEDのWD1を準備し回送する。



会議風景



集合写真

次回は、2018年11月12日～15日にアメリカ、シカゴにて開催予定。

ASTM D01(塗料)、G03(耐候劣化) アメリカ・フェニックス国際会議

*喜多英雄

開催日:2018年6月25日・26日

場所:JW Marriott Phoenix Desert Ridge

参加国:アメリカ・日本 2ヶ国

(1) D01.27.TG

ASTM D7869(高湿度条件下のキセノン耐候試験)

David氏からRRテストの樹脂、塗装板、フィルム等のサンプルについて説明があった。PCの黄変、PETの湿度による変化、PVDFフィルム、PSの温度変化等すべて観察できるように考える。9月以降に開始予定。

(2) G03.09 Radiometry(放射測定)

Aron氏からScopeについて300-2,500nmの波長範囲を300-4,000nmに変更する提案があったが、波長の定義をなくす案を作成した。喜多がCIE85改訂について現状を説明した。

(3) G03.03 Simulated and Controlled exposure Tests

G151(耐候試験 通則)

改訂についてコメントを協議、参照放射照度計の校正までの使用時間を規定すべきとのコメントがあった。受光器校正に参照放射照度計を追加する。

G152(サンシャインカーボンアーク試験)

G153(紫外線カーボンアーク試験)

再承認の提案を回送する。

Jim Pickett氏が、耐候試験における水の要素について考察する新規提案をした。

次回は、2019年1月にアメリカ、ヒューストンにて開催予定。

< ISO 規格発行までの手順 >

予備段階	PWI	Preliminary Work Item (Project)
提案段階	NP	New Proposal for a work item
作成段階	WD	Working Draft
委員会段階	CD	Committee Draft
照会段階	DIS	Draft International Standard
承認段階	FDIS	Final Draft International Standard
発行段階	IS	International Standard

*校正部 部長